

続・ふるさと

くちばし話

芳賀高校の閉校に思う②

昭和36年4月から栃木県立真岡農業高等学校芳賀分校が名実ともに独立し、新校舎での授業が始まった。独立校舎ができても校庭や校舎周辺の整備は不十分であり、当時の生徒や先生たちは環境整備に費やす時間が多かったことと思う。

独立校舎の完成とともに「芳賀北部に県立高校の成立を」という運動が一丸となって展開され、ついに昭和37年12月、県議会定例会において「県立芳賀高等学校」設立が議決され、昭和38年1月1日付で芳賀高等学校が誕生し、4月に第1期165人が入学した。

芳賀高校周辺を「赤坂」

といい、当時、県道茂木線で祖母井以東では一番開発の進んだ地域であった。旧祖母井町の隔離病舎があった場所に、分校独立校舎が完成。県立高校設立の運動と時期を同じくして住宅、商店などの開発が行われ集落が形成されていった。昭和39年に下の原から芳賀高校の先までの県道が改修され、曲がりくねった県道が現在のように直線になった。当時の県の事業には必ず地元負担金があり、この改修にも地元負担が発生した。当時の町土木費は約1,400万円だったと記憶しているが、そのうち約650万円が地元負担金であった。町

第37回

生涯学習課総合情報館推進係
TEL 028 (677) 2525



はこの負担金を納入したため、県道工事は行われたが、この年は町の土木事業が行えなかった。

芳賀分校の校舎独立から47年、栃木県立芳賀高等学校は平成19年3月1日閉校となった。昭和35年から62年までの28年間、芳賀高校に係わってきたが、閉校はさびしい。

さようなら芳賀高校！

編集後記

□ 今年は暖冬で「寒くてたまらない」という日は数えるほどでしたが、それでも春が来るのはうれいものです。

□ 広報担当3年目の春を迎えました。昨年はイベントの最前列で写真撮影ができるようになっていた自分に、驚きと少しの葛藤がありました。しかし今では最前列でも何のその。イベント会場では皆さんの迷惑にならないように気をつけて撮影していますが、私が前にいるために「よく見えない」ということがあったら、声をかけてください。

■ でも、どうしてカメラを構えると夢中になってしまうのでしょうか…。やっぱり悩む私でした。

(丹)



Urogus sibiricus
(L=15cm)



冬鳥として飛来するが、数年に一度しか見られない貴重な野鳥である。名前に「マシコ」と付くのは、横から見た顔つきが猿の子に似ているので付けられた。

体の色彩は派手で、雄は春先の夏羽に近くなるとだんだんと赤みが強くなる。頬から腹部一面が深紅色で頭から背中にかけては灰褐色で黒い翼の付け根に2本の白い線が入る。雌は全体が茶褐色で、体全体に黒い縦斑線が入る。

くちばしは円錐形で、厚くて、短く、小さい。堅いくちばしは穀類や種子をかみ砕くのに適していて、主に植物の種子を好んで採餌する。鳴き声は柔らかくフィッフィと小さく鳴く。

昨年の春、ハギの実を盛んに採餌する5～8羽の小さな群れを見つけたことができた。

■ 編集 芳賀町広報広聴委員会
TEL 028 (677) 6032 E-mail kouhou@town.haga.tochigi.jp
■ 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■ 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp



☎ 芳賀町の携帯サイトはコチラから →



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.e3pa.com